

# しが国際協力親善大使レポート

にしほり けいこ  
西堀 恵子さん

隊次：2015年度1次隊

職種：小学校教育

派遣国：ブラジル

## プロフィール

滋賀県愛荘町出身。関西一外国籍児童が在籍する湖南市立水戸小学校勤務。ブラジル人の友人や生徒たちと交流するうち、ブラジルに興味を持ち、現在は現職教員派遣制度を利用して2015年7月からブラジルサンパウロ州サンパウロ市のミラソウ学園に派遣されている。

## ブラジルの気候や文化

私の派遣されているサンパウロ市は、ブラジル南東部に位置するサンパウロ州の首府であり、南半球最大の都市です。市街地には高層ビル、郊外には工場がたくさん立ち並ぶ大都会です。標高は約800mで、比叡山ぐらい高さに位置する所に住んでいます。

人種のるつぼ、といえはアメリカを想像される方も多いですが、ブラジルも移民によってできた国で、多くの日系移民が暮らしています。ブラジルにいる日系人の約70%はサンパウロ市に暮らしており、日系企業も多く進出しており、日本との縁が深い都市でもあります。

親切な人が多く、困っていたら必ず誰かが声をかけてくれたり、一人に道を尋ねると沢山の人が集まってきてああでもない、こうでもない、と何とか助けようとしてくれる人も多いです。

## 活動や生活について

私の配属先は、プロテスタント系キリスト教の理念に基づいた私立の学校で、幼・小・中学校があります。将来を担う子どもたちに日本の文化を学ばせ、日本の精神を身につけてどんな困難にも立ち向かえる子どもに育てたいという理事長の願いのもと、日本の係活動や生徒会活動の導入を行ったり、書道・茶道などの日本文化の紹介や体験する授業を行ったりという活動をしています。英語・日本語が必修なので、漢字の授業や日本語の授業にも携わっています。子どもたちは正直なので、授業づくりのバロメーターです。楽しいときはとても盛り上がりますが、うまくいかないときは反応が悪いので自分自身の励みにも落ち込む種にもなります。やりたくないことは、はっきりと「やりたくない!」というので、はっきりと主張するところは素晴らしいのですが、やらねばならないことをさせるときにどうやってさせればよいか、子どもにも、自分自身にも忍耐を付けるにはどうすればよいか日々奮闘中です。また、クリスチャンの学校のため、「鬼」「妖怪」などを教えてはならないなどの

制限があり、そういったことが関係する行事やものごと、例えば節分や日本で流行中の妖怪ウォッチのダンスや話はできません。宗教のことが絡むので、日本を紹介するにも制限があるところに最初は戸惑いましたが、折り合いをつけながらこれからも日本の良いところを沢山紹介していきたいと思っています。日本はクリスマスは祝うし、クリスチャンでなくても教会で結婚式を挙げるし、除夜の鐘をお寺につきに行くけれど初詣は神社、でも宗教は信じてないという人も多くていい加減だな！という話を外国の方からされる時がありますが、私自身は妖怪を怖いものというよりは人間臭いものとしてとらえて、八百万の神様を祀り、様々な国の文化や宗教を受け入れて日本流にしてしまう、日本のおおらかさ、寛容さはいいな、とブラジルに来て思いました。

学校以外の活動では、滋賀県人会の行事があるとお手伝いをさせていただいたり、イベントに参加させていただいたり、一人になるような機会はあまりありません。「滋賀県出身だから」というだけで、会長をはじめ滋賀県人会の皆さんにはたくさんお世話になっています。ブラジルに来て初めて自分は滋賀県出身だ！ということ意識したり、自分のふるさとについて考えたりするようになりました。

外の世界から日本を観ることで、より日本のことを知ったり、自分のふるさとを好きになったりすることができました。今はビルの立ち並ぶ大都会に住んでいるので、家族や生まれ育った愛荘町の田んぼと山の風景、琵琶湖が恋しくなることもあります。辛いことも含めて、すべての経験のおかげで自分が少し強くなったような気がします。そして、たくさんの人の温かさに触れることができました。まだ活動は1年と3か月残っているので、大きなことはできませんが、自分を支えていただいている方々に感謝を忘れず日々精進していきたいと思っています。



ミラソウ学園での運動会



文化祭での様子。薬の歴史を調べて発表した生徒と。



ミニ屋台祭りのお手伝い。滋賀県人会の方々とう近江肉うどんを売りました。



生徒。人懐っこくてあいさつがわり Abraço (ハグ) をしてくれます。



日本語を放課後に学習する生徒と。卒業する前の日に書道でメッセージを書いてくれました。

# しが国際協力親善大使レポート

にしほり けいこ  
西堀 恵子さん

隊次：2015年度1次隊

職種：小学校教育

派遣国：ブラジル

## プロフィール

滋賀県生まれ滋賀県育ち。

## 国、地域、文化、活動や生活について

ブラジル、サンパウロ市にやって来て1年半と少しが過ぎました。こんなに故郷を離れるのは初めての事です。故郷を離れてさらに滋賀県を好きになりました。サンパウロ市はブラジルの南東部に位置するサンパウロ州の州都です。南半球最大のメガシティとも呼ばれています。市街地には高層ビルが立ち並び、郊外にはたくさんの工場が立ち並ぶ大都会です。大都会に住んでみるのも憧れていましたし、いいところが任地だねと言われることもありますが、住んでみるとやはり緑豊かな山々と田んぼと琵琶湖のある、のんびりとした滋賀県が恋しくなることもあります。

サンパウロには47都道府県人会があります。滋賀県人も、もちろんあります。県人会の方々には大変お世話になっています。屋台祭りや日本祭りのお手伝いをさせていただいたり、新年会や忘年会、県人会の旅行に誘っていただいたりしています。県人会のみなさんには家族のようによくしていただいて、まるで親戚の集まりのようです。地球の反対側まで来てもふるさとや日本を感じる事ができて驚いています。

配属先は、ミラソウ学園という、台湾人の理事長夫妻が創設したキリスト教福音派の理念に基づいた学校です。0歳から15歳までの子どもたちが学習していて、日本語が必修です。その学校で私は日本語を教える補助をしたり、日本語会話を教えたり、日本文化や日本の学校のことを紹介したり、日本の係活動を導入したり、日本の舞踊や太鼓の指導をしたりしています。特に2016年はあいさつあふれる元気な学校にするために新しい活動に挑戦しようと生徒たちにあいさつ運動を提案してみたところ、みんなやる気になってくれて、生徒やスタッフが登校する早朝に当番である生徒が校門に立って元気よくあいさつをする「あいさつ運動」がスタートしました。提案したときは、早朝に校門に立ってあいさつなんてきっと眠くて嫌だと言われるのではないかと不安でしたが、みんな面白そうだと喜んで参加してくれて、眠い目をこすりながら早朝6時半に集合してくれ、活動が始まりました。やり終わった後の達成感と保護者・スタッフたちに好評だったあいさつ運動が毎月第一金曜日に定着した活動になったことに喜びを感じています。今では当番では無い生徒たちも早めに登

校してきてくれ、校門に立ってあいさつをしてくれていて、やる気いっぱいの生徒たちに感謝、感謝です。

宗教の問題上ミラソウ学園では、「鬼」や「ひな祭り」など、日本の文化であっても教えるはいけないことがあり、色々制限がある中で日本のことを教えるということに戸惑い、少し苦労することもありましたが、折り合いをつける地点を見つけられた今は様々な宗教・習慣があるのだな、ということを知れてよかったと思っています。

もう 3 月には帰国してしまいますが、辛かったことも面白かったことも全て含めてブラジルに来てよかったと思っています。帰国後は外国籍児童の多い小学校に戻る予定なのでこの経験が子どもたちのために少しでも役に立てることができるよう全力で頑張ります。ボランティアに応募するにあたって背中を押してもらった上司をはじめ、家族、仲間、周りのすべての人に感謝です。少しずつ恩返ししていきます。



早朝あいさつ運動をする生徒たち。  
初日はとても寒い日でしたが負けずに頑張りました。



学校の運動会の日にはミラソウ学園のスタッフ全員で記念写真。



ちょっと面白い字もありますが、習字に挑戦する生徒たち。





9年生（中学3年生）の生徒たちと。